

よろずは

平成二六年

二月号

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。

万葉文化館 おすすめ万葉歌

なでしこは 秋咲くものを
君が家の 雪の巖いはほに 咲け
りけるかも

万葉集 卷十九―四二三一

久米廣繩くめのひろなほ

【意訳】

なでしこは秋に咲くものだが、いまはあなたの家の雪の山に咲いていることだ。

この歌にもよまれているとおり、ナデシコの花は普通は初秋に咲きます。ところがここでは、「雪の巖」に咲いているとあります。これはいったいどういうことなのでしょうか。

実はこの歌の題に、雪を積み上げて重なりそびえる岩の形に造り、巧みに草木の花を造り添えて飾った、というその時の状況が書かれています。つまりこの時のナデシコは造花で、雪を活用したみやびな趣向をテーマにした歌であったことがわかります。

歌がよまれたのは天平勝宝三年（七五一）一月三日のことで、大宰府の次官だった内蔵繩麻呂なわまろの館で開かれた宴の席でのことだったとも書き残されています。この時の一月三日は、現代の暦でいうと二月初めにあたります。古代の宮廷人たちは、雪だるまではなくこんな雪山を造って楽しんでいたようです。

【万葉古代学係】